

公益社団法人日本義肢装具士協会

HP : <https://www.japo.jp>

紹介動画を見る



団体概要

公益社団法人 日本義肢装具士協会が運営する「教育機関等イベント」は、当協会が取り組む公益目的事業活動の一つです。この公益目的事業は、障がい、障がい者、パラアスリートおよび彼らを支援する義肢装具士等専門職について、社会的な理解を高めるために啓はつ活動を行う事を目的とし、当協会東日本支部が管轄する「障がい者、パラアスリート及び義肢装具士の啓はつに関するWG」が事業活動を主動しています。

支援対象

小学校/中学校/高等学校

活動内容・活動状況

主な活動内容は、①オリ・パラを契機とした地域活性化プランへの協力、②小学生・中学生・高校生に対して、「障がい」「障がい者」への理解を通じたボランティアマインドの育成や社会教育への貢献です。

2015年(平成27年)に大田区で行われた第22回日本義肢装具士協会学術大会内で、近隣小中学生を対象とした体験イベントをきっかけに活動を開始いたしました。

その後、東京都内の学校より直接依頼を受ける「義肢装具体験イベント」および、東京都教育委員会の事業である「オリンピック・パラリンピック教育推進プログラム」にて、各種イベントの企画運営を致しておりました。

土曜日にイベントを行う場合、義肢装具士もスタッフとして参加しやすいという事も有り、25名程度のスタッフを擁した大規模なイベントを開催する事が出来ております。イベント内容は「義肢装具士による講義」、「義肢装具装着体験(図1)」、「筋電義手操作体験(図2)」、「高齢者体験キット装着」、「義足組み立て体験(図3)」、「義肢ユーザーとの交流」、「展示品閲覧」等多くのブースを用意しております。

平日開催のイベントでは、スタッフとして参加できる義肢装具士が少ないため、「義肢装具士による講義」と「義肢ユーザーによる講演・パフォーマンス(図4)」、「展示品閲覧」程度の内容で進めております。

対応可能時期

日程が合えば随時可能(ただし、年間2~3回程度の実施のため、先着順)

必要経費

講師及び義肢ユーザーへの謝金等の支払いのため、数万円(応相談)

会場・定員・必要備品等

各学校の体育館、多目的室を会場としていました。定員は各学校の生徒数となります。放送機材やパソコン等学校備品を用意して頂く事があります。

担当者より一言

2015年より始めて、現在のべ9校の小・中・高校でのイベント実績があります。各学校の新型コロナウイルス感染症対策を遵守して、安全に活動出来るよう常に心掛けております。

普段は学ぶ機会の少ない障がいや義肢装具に関して、講演や体験を通じて身をもって知っていただく事は、生徒達にとって貴重な経験になると思います。

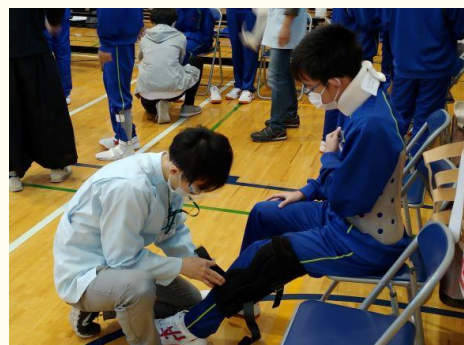


図 1: 装具装着体験



図 2: 筋電義手操作体験



図 3: 義足組み立て体験



図 4: 義肢ユーザーのパフォーマンス

また現在はコロナ禍であるため、zoom による web 版のイベントも開催実績があります(図 5)。その場合は、「義肢装具士の講義」と「義肢ユーザーによる講演(図 6)と動画視聴」、「郵送による展示品の閲覧(図 7)」が主な内容となります。

当ワーキンググループでは、コロナ禍における義肢装具士の啓はつ活動の一環として、授業教材用 VOD を作成しました。希望のある学校へは、期間を限定し配布いたします。



図 5: web による講義



図 6: 義肢ユーザーによる講演



図 7: 展示品閲覧